

教育最前線

連載 16

●名護自動車学校・セーフティフェスティバル

地域の方々が、楽しみながら学ぶ安全教育

「自転車交通安全教室」の内容

1 講話

名護警察署の警察官が、自転車の事故事例を紹介したDVDを使いながら、子どもたちに自転車の安全な乗り方を指導。携帯など、片手運転の危険性、見通しの悪い交差点での一時停止と安全確認の重要性、大型車の左折巻き込みやクルマの死角について、駐車車両や動いているクルマの側方を走る際の注意点をアドバイスした。



2 自転車シミュレーター体験

自転車シミュレーター体験では、代表児童がHonda自転車シミュレーターを体験し、その他の児童はその様子を見学しながら安全な走行方法を学ぶ。

指導員が、危険予測が必要な場面や事故が起きやすい場面で、「一時停止の標識があります、手前で必ず止まり左右の安全を確認しましょう」などと、安全な走行方法や交通ルールの説明を行った。



3 実験 (飛び出し・巻き込み・死角)

●飛び出し実験

子どもたちの目の前で、40km/hで走行するクルマが目標位置から急ブレーキをかけ、指導員が「クルマは急に止まれない」ことを伝える。そして、もしも急に道路に飛び出したらどうなるか、走行車両の前にダンボールを飛び出させ、ダンボールがクルマにひかれてしまう様子を見せる。指導員は「ボールが道路に飛び出しても自分は飛び出さずに、横断前は必ず止まってクルマがきていないか安全を確認すること」を伝え、模範の横断の方法を実演した。

●巻き込み実験

交差点で左折する大型車の左後方を自転車と並進し、そのまま走行すると後輪に自転車が巻き込まれてしまう様子を実験で見せる。指導員が「自転車で交差点に近づく場合は、クルマと並んで走らずに、止まってクルマを先に行かせる」ことを伝え、模範走行を実演で示した。



●死角の実験

保護者、または、子どもを運転席に座らせ、運転席から見えない場所をクルマの前後左右につけたヒモを使って明示する。指導員は、運転手から見えない死角の位置で遊んでいると、クルマが発進する危険があることを説明し、注意を呼びかけた。



4 乗車体験

最初に、二人乗りや片手運転など危険な走行はしないように注意を呼びかける。また自転車点検や、夜間のライト点灯などの重要性を説明。

その後、実際に子どもたちに自転車に乗ってもらい、狭路、スラローム、凸凹道の走行を体験させる。悪条件では上手にハンドルが操作できない子どもも多く、自転車を利用するときには、思っている以上に注意が必要なることを理解させるとともに、自転車の運転に慣れる練習を行った。



小学生を対象にした自転車交通安全教室



ライダー向けのセーフティライディングスクール

昨年11月3日、名護自動車学校(沖縄県名護市)でセーフティフェスティバルが開催された(主催:名護自動車学校、名護警察署、名護地区交通安全協会、共催:本田技研工業(株)安全運転普及本部)。このイベントでは、午前中は主に小学生を対象とした自転車交通安全教室とライダー向けのセーフティライディングスクール、昼はバイ隊員の模範走行や高校生・大学生による自転車デモンストラレーション、

午後には二輪安全運転競技大会が行われ、約1000人が参加した。名護自動車学校は、本田技研工業(株)安全運転普及本部と提携し、地域の交通安全活動に取り組み教習所の1つ。今回、名護自動車学校の指導員、名護警察署の警察官、名護地区交通安全協会の指導員、ホンダのインストラクターが協力して自転車や二輪車の安全運転指導にあたった。

ポイント①

危険を目で見てわかりやすく伝える

自転車交通安全教室では、小学校低・中・高学年と、年齢ごとに3グループに分けて自転車シミュレーター体験、事故を再現した実験、自転車乗車体験など参加体験型の指導が行われた。名護自動車学校常務取締役の野原

聡さんは、「死角や巻き込み事故を伝える実験では、危険な場所を子どもたちが自分の目で確認できやすく、こうした工夫が、

子どもたちの理解を深めると考えています」と話す。

ポイント②

乗り物の楽しさと危険性の両方を伝える

今回のイベントでは、危険を安全に体験してもらうのと同時に、自転車やバイクのデモンストラレーションなど乗り物の魅力を伝える内容が盛り込まれている。野原



名護自動車学校常務取締役の野原聡さん

内容の充実が活動の継続につながる

「子どもから高齢者まで地域の方々への安全教室が浸透すれば、教習所が世代を超えた地域の方々の交流の場となり、免許取得者も地域で下手法な運転はできません。安全教室が地域の事故抑止の効果となることを期待しています」

と、野原さんは話す。さらに「安全教室は、免許取得のための教習とは異なる活動です。指導員のレベルアップにつながるイベントであれば、指導員自身の意欲につながり、自然と活動が継続するはず。地域の方々と指導員の両方がよってよかったと思えるイベントが大切」と、地域の安全活動は内容の充実が重要と語った。

教習所とホンダが連携して、地域の安全活動に取り組み

名護自動車学校では、毎年11月に一般ライダー向けの競技大会や地域の方々への安全教室を実施している。野原さんは、「毎年、イベントを実施していますが、内容のマンネリ化がありました。今回、ホンダのノウハウを取り入れ、初めて自転車というテーマで子どもたちに安全を伝えたり、二輪の個人の技術レベルを意識させる指導法を取り入れるなど、新たな視点を学ぶことができました。こうしたサポート体制は、指導員のレベルアップにもつながり、地域の方々へより幅広く安全を伝える良い機会となります」と、連携による成果を語った。

かるたで覚えよう! 交通ルール 「Honda交通安全かるた」大判セットを販売!!

ご好評をいただいております「Honda交通安全かるた」ですが、各方面よりお問い合わせをいただいております。従来からのかるたの絵札45枚が、A4サイズの大判になり、交通安全教室など集合教育の現場で使いやすいとなっております。実際の活用事例は下記ホームページ参照。
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kidsdesign/

- 「Honda交通安全かるた」大判セットの内容
- 絵札(大判サイズ)45枚
- かるたセット(普通サイズ)1セット
- 教育指導マニュアル 1部
- ※定価2万円(税込) 予定

★4月1日完成予定で、現在、先行予約を受付中です。



ご希望の方は、住所、氏名、電話番号、メールアドレス、必要部数をご記入の上、下記のFAXまたは、メールアドレスにご連絡をお願い致します。
予約先: 本田技研工業(株)安全運転普及本部
FAX / 03-5412-1737
e-mail / sj-mail@spirit.honda.co.jp
先行予約締切: 2010年3月10日(水)
お問合せ: 本田技研工業(株)安全運転普及本部
TEL / 03-5412-1736

読者の声

●高鍋自動車学校(宮崎県) 永友徹さん

本校は、地域の交通安全に少しでも貢献したいという思いから、教習業務はもとより、小学生や高齢者向けの交通安全教室、高校生への原付安全教室、企業向けの安全運転指導など、様々な交通安全活動に取り組んでいます。免許を取る際だけでなく、交通安全意識を高めるために、日頃から指定自動車教習所を多くの方に積極的に利用していただきたいと思っています。SJ紙では、子どもから高齢者まで幅広い世代への交通安全活動が紹介されており、我々の活動と関連する記事が多く、参考にしています。これからも、自転車の安全指導や、高齢者の事故の特性を紹介する記事など、役立つ情報を積極的に掲載してほしいです。

ご愛読者のみなさまへ

SJに対するご意見・ご感想をお寄せください! SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。みなさまのご意見・ご感想・ご要望を下記メールアドレスにてお待ちしております。

sj-mail@spirit.honda.co.jp